

審 議 会 会 議 録

会議名称	令和元年度 第1回伊達市放課後子ども教室運営委員会議		
議 題	議事 ① 平成30年度伊達市放課後子ども教室事業実績について ② 令和元年度伊達市放課後子ども教室実施予定事業について		
開催日時	令和元年7月18日（木）18：30～19：30		
場 所	伊達市役所第2庁舎会議室1		
出席委員	小林浩路 委員長、勝木真弓 副委員長、上埜幸喜 委員、阿部聖司 委員、武者ますみ 委員、笹木 圭 委員、栗橋司朗 委員、馬場一憲 委員、日下しのぶ 委員（計9名）		
	所管部課名	教育部生涯学習課	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開会（事務局：生涯学習課長）</p> <p>2. 教育長挨拶</p> <p>3. 協議</p> <p>（1）平成30年度伊達市放課後子ども教室事業実績について</p> <p>（2）令和元年度伊達市放課後子ども教室実施予定事業について</p> <p>【レジュメに基づき事務局より説明】</p> <p>【質疑・意見交換】</p> <p><input type="checkbox"/> 委員</p> <p>伊達市では、放課後児童クラブ（以下、児童クラブ）と放課後子ども教室（以下、子ども教室）を教育委員会にて所管していますが、国の方では、厚生労働省から文部科学省に移管しているのですか。</p> <p>●事務局</p> <p>現時点では、児童クラブ、子ども教室を別々の省庁で所管しているままです。</p> <p><input type="checkbox"/> 委員</p> <p>事務局からの説明に、「児童クラブと子ども教室と連携して」とのことでしたが、具体的にはどういった点で連携して行っているのですか。</p> <p>●事務局</p> <p>放課後子ども総合プランにおいては、児童クラブ、子ども教室を一体的に同じ学校内にて実施することを理想としており、伊達市では、長和小学校にて児童クラブ・子ども教室を学校内にて実施しています。伊達西小学校では、元々、児童クラブの建物が別で存在することから、実施には至っておりません。ただ、連携の点においては、以前のように、同じ伊達市役所内でありながら、児童クラブの所</p>			

管は子育て支援課、子ども教室の所管は教育委員会と別々ではなく、同じセクションで所管することにより、様々な事情を考慮したり、工夫したりすることにつながることを狙いとしています。また、児童クラブの入所要件として保護者が就労していることが挙げられますが、子ども教室においては、特別な要件は設けていません。そのため、児童クラブに通う児童全員にも、子ども教室に参加してもらい、同一プログラムを実施することを国としては目指しています。まだ伊達市においては、連携の道半ばであり、児童クラブに通う子どもや保護者に対し、児童クラブ、子ども教室双方に登録することができますというアピールをすることどまっています。そのため、これからは、より積極的にアプローチする必要性があると感じています。

□委員

国が示している放課後子ども総合プランにはどういったことがうたわれているのですか。

●事務局

□「子育て支援」という大きな枠のなかに、保護者が就労しているため通うことができる児童クラブと、誰でも通うことができる子ども教室とがあり、子どもにとって安心・安全な居場所を提供し、同一のプログラムにて実施しましょうというものであると理解しています。

□委員

児童クラブの所管が教育委員会に移ったことでの負担感などはありますか。

●事務局

正直なところ業務量は増えましたので負担は感じます。ただ、たとえば体調が悪い子どもの情報を子ども教室、児童クラブの双方で共有できたり、学校での子どもの様子、子ども教室での子どもの様子、児童クラブでの子どもの様子など様々な場面の情報を把握できたりすることが可能になったというメリットは感じています。他には、たとえば学校の臨時休校時の対応が早くなったということも挙げられるかと思います。

□議長

伊達西小学校では、子ども教室終了後に校外の児童クラブへと移動するとのことですが、長和小学校では、どういった形ですか。

●事務局

長和小学校では同校内に児童クラブが存在するため、子ども教室終了後は、校内の児童クラブへ通うこととなります。以前は、長和地区コミュニティーセンターにて活動しておりましたが、本運営委員会の議題でも挙がっていた通学危険箇所等の懸念や悪天候時の影響もあったことから、長和小学校の協力を得て、現在は、ほとんどすべての活動を長和小学校内の空き教室や体育館にて実施しております。

□議長

それでは、長和小学校においては、授業終了後に空き教室にて子ども教室を行い、その後は児童クラブに通うといった形で、同じ建物内で行うことができているとのことですね。

□委員

児童クラブはどういった形で運営されているのですか。

□委員

授業終了後に児童クラブに来た際には、低学年ではおやつ前に、高学年であればお

やつ後に宿題をしています。ただ強制ではありません。また、保護者の方の指示を受けることもありますので、たとえば、家庭で宿題をさせたい場合や、児童クラブにて宿題をするように声をかけて促してほしいといった場合などには適宜対応しています。方法としては、解法を教えるといったことはせず、ヒントを伝えて導いたり、辞書等を一緒に引いたりするように心がけています。

●事務局

補足として、児童クラブでの過ごし方は、自宅での習慣を児童クラブに持ち込んでいるような形です。おそらく、子どもが自宅に帰った際には、まずは保護者の方からは、まず手などを洗った後に、宿題をやるように促されるかと思います。そういった活動を児童クラブ内にて実践している形です。ただ、仕事の関係などでお迎えの時間が18時頃になる場合もあるかと思いますので、補食としてのおやつを提供しています。おやつ終了後は、宿題に取り組んでもいいですし、友達同士で遊んだりしてもよいことになっています。そして、宿題については、保護者の方とは違って教えることはできません。

□委員

長和小学校では金曜日をB日課として、授業終了時間を早めておりますので、遊び・交流・体験の日（以下、体験の日）などの実施がしやすいのではと思います。

□委員

ただ、冬季以外であれば問題ありませんが、冬季であれば、たとえB日課の授業終了後に体験の日を実施したとしても、結局は、帰宅時間が16時を過ぎてしまうため難しいと思います。

●事務局

学校のカリキュラムについては、変更できないものだと思いますので、事務局としてカリキュラムの変更は考えておりません。ただ、事務局としても、子どもたちに様々な体験をしてもらいたいとも考えていますので、冬季の子ども教室の開催については、帰宅時間等の絡みもあることから、開催時間を短縮したり、そもそもの開催を見送ったりといった方策を、これから考えていかなければいけないと思っています。

●事務局

ちなみに長和小学校の子どもで通学時間が長い子はどれくらいかかりますか。

□委員

徒歩で帰る子どもでは30分ほどかかる子どももいます。ただ保護者が送迎している子どももおります。

□委員

まず長和小学校から6キロほど離れた村界まで歩く子どもがまずいないと思います。

●事務局

長和小学校から自宅までの通学時間が45分、50分もかかるようであれば、物理的に開催自体はできなくなるかと思いますが、もし30分ほどで長和小学校から自宅に帰れるようであれば、体験の日を楽しみにしている子どものために、開催時間を30分として開催できますでしょうか。

□委員

はたして開催時間を短縮してまで開催する必要があるのかと考えます。

●事務局

そうならば、11月から2月までは体験の日が一切開催できなくなってしまいますので、その点についても考えていかなければいけないと思います。

□委員

低学年だけであれば、体験の日を開催することは可能です。ただどうしても高学年だと帰宅時間の問題が生じてしまいます。

□議長

伊達西小学校の場合も同じような問題が生じますか。

●事務局

はい、伊達西小学校の場合も同様です。そのため、コーディネーターとも相談し、これから考えていかなければいけない課題だと捉えています。

□委員

先日、伊達西小学校で子ども教室を開催した際に、開催日が参観日と重なってしまい、子どもの参加集約等に時間がかかってしまったということがあったようです。そのため、そういった日は避ける方がよいのではと思います。

●事務局

実際に参観日に開催したところ、スタッフからも運営が大変であったと聞いておりますので、次回からは配慮いたします。他には、学芸会や運動会の時期等でも同様の事態が想定されますので、そういった日を避けて開催できればと思います。

□委員

資料のなかに7月17日時点での子ども教室登録児童数が記載しておりますが、このうち児童クラブに在籍している児童は何名いますか。

●事務局

伊達西小学校では40名中24名、長和小学校では18名中8名が児童クラブに在籍しています。

□委員

私が見学した際には、子ども教室のスタッフの方や児童クラブの職員の方など様々な方が参加され運営していると感じました。また、子ども教室スタッフの方々が、子どもの名前と顔をしっかりと判別し、円滑に事業を運営されている様子でしたので、スタッフの方々のご苦労も感じました。

□議長

ボランティアスタッフの確保の点についてはどういった状況ですか。

●事務局

今年度のボランティアの参加状況としては、昨年度と同程度ではありますが、現時点では、必要数のボランティアの方は確保できていると考えています。ただ、子ども教室の新規校を開拓するためには、現状のチーム（人数）をもう1チーム作ること、特に、チームのブレーンの役割のコーディネーターとして活動していただける方がいなければ、実現は厳しいかなと考えます。そのため事務局としては、そういった方を探していかなければと感じています。

□委員

武者コーディネーターは、現在は伊達西小学校と長和小学校の2校を担当されているんですね。やはり、もう1校担当が増えるとなれば大変ですか。

●事務局

現在は武者コーディネーターに2校担当していただいております。もし、もう1校増えるとなれば、現在でも1か月4週のうち3週ほど活動していただいておりますので、これ以上増えるとなれば、現実問題として厳しいものがあると感じます。

□議長

コーディネーターの役割として、子ども教室の安全管理人・学習指導員として活動してもらえるような人を確保したり、地域のボランティアをされている方や、団体たとえば学校PTA関係組織のおやじの会や読み聞かせサークルの橋渡し役となったりして、学校と地域そして子ども教室をつなぐ役割を担っていると思います。ちなみに。体験の日の講師として活動されているヒップホップダンス、聖龍太鼓などの団体は協力的に活動していただいているのですか。

●事務局

各団体とも非常によく協力いただいています。また、昨年度は、伊達西小学校おやじの会よりご提案があり、体験の日の講師を務めていただいた実績もございます。事務局としても引き続き、こういった形で地域の方に携わってもらいたいと考えていますし、協力いただける環境を整備したいと考えています。

□委員

子ども教室の児童の募集はいつ頃行っていますか。

●事務局

子ども教室の児童の募集については、2～6年生については4月に募集を実施し、1年生については、学校に慣れるまでに時間がかかることから、5月に募集しています。

□委員

随時募集はしているのですか。

●事務局

はい、随時募集をしております。ただし、スポーツ安全保険加入の手続きがあることから、体験の日の参加については、時間をいただく場合がございます。

□委員

せっかく良いプログラムを展開されているので、年に2回ほど募集をかけてもよいのではと思います。

●事務局

検討させていただきます。

□委員

基本的なことではありますが、子ども教室の登録は無料ですか。それと、もし登録しても来ない子どもがいた場合の保険の取り扱いはどうなりますか。

●事務局

事業実施前の段階では、保険料の徴収についての議論はありましたが、現在は無料で実施しています。保険については、伊達市掛け金を負担しており、仮に1回も参加しない子どもがいても、1年間は保険が適用されることとなります。また、ボランティアスタッフについても保険に加入しております。

□委員

11月の長和小学校の体験の日の内容として「プログラミング」とありますが、こ

れは高学年のみ対象なのでしょうか。

●事務局

現時点では、プログラミング体験を依頼する団体との話し合いでは、小学校4年生以上を対象とするのが妥当ではないかとのことですが、参加人数によっても変わってくるかと思います。できれば全学年参加で実施したいとも考えています。

□委員

同じメニューであれば全学年開催は難しいかもしれませんが、学年を分けて実施するようであれば、面白い取り組みになるのではと考えます。

●事務局

実際にどういった形で実施できるのかといったところを検討させてください。ちなみにプログラミングは学校で取り組んでいかなければならない科目かと思いますが、学校としても興味深い分野ですか。

□委員

学校としても、次年度よりプログラミングが教科として位置づけられるため、非常に関心をもっております。特に、子どもたちが発想の基本を学んだり、創造力を育んだりして思考・発想を整理できる点において、子ども教室にて開催できるようであれば面白いのではと感じます。

●事務局

ちなみに学校のプログラミング教材と同一のもので実施する方がよいのか。別のものを使用してもよいのかお聞きしたいです。

□委員

現時点では、プログラミング要素が詰まった遊び的なものは出てきておりますが、プログラミングの教材はありません。なので、思考・発想を整理できるような学びがあればよいのではと考えます。

●事務局

それでは、プログラミング体験を実施する際には、事前に学校に内容の確認等をしていただく方がよいですか。

□委員

子どもたちに学びの機会を提供いただくだけでも十分です。

●事務局

たとえば子ども教室の予算にて、必要性などを考慮し、プログラミング教材を購入することも可能です。

□委員

車を動かすようなプログラミング教材などでもよいのかと思います。

4. 閉会（小林委員長）